

Grundlage entwicklungsgeschichtlicher Befunde, Phycologia 3(2), pp. 60-68, 1963).

(千原光雄——国立科学博物館植物学第二課)

中国で藻類学学術会議が初めて開催されたこと

植物学報 *Acta Botanica Sinica* の12巻4号384頁(1964年12月)に、金鴻志が第一回全国藻類学学術会議の経過を報告している。次にその大要を紹介します。

中国植物学会と中国海洋湖沼学会との共催で、1964年7月下旬、青島において、第一回全国藻学学術会議が開催された。会議は5日間続き、総合報告2日間、5専門部会に分かれての討論が3日間であった。出席した代表は55人、傍聴者60余名。提出された論文要旨は144篇。内容は藻類の分類、形態、生活史、生理生態、遺伝育種、生産力、窒素固定藍藻、単細胞藻、化学、加工利用、総合調査となっている。

会議では初めの2日間に、中国建国以来の淡水藻及び海藻の研究状況と、主たる成果の報告及び藻類の分類、形態、生態、生理、化学、加工、培養利用等の分野における国際的な動向に関して12篇の報告が行なわれ、あとの5日間に、5つの専門部会で8題目(名称、窒素固定藻、単細胞藻、生産力、ノリ養殖、コンブ養殖、其他の海藻養殖、化学加工)に分かれて討論が行なわれた。

最近数年間の中国における藻類学関係の主たる収穫として次のものを挙げている。

- (A) 養殖関係には 1) アマノリ類の養殖、窒素吸収利用、胞子の形成と放出。2) コンブ類の新品種の育成、遺伝、雑種強勢、春苗の培養、混水区(原文通り)の光合成作用、幼苗腐蝕の防止と亜鉛の効用。3) キリンサイの養殖。4) ワカメの生長。5) アルギン酸ソーダー。
- (B) 分類形態関係には 1) ホシミドロの色染色体分裂。2) 扭箱藻(原文)の細胞分裂。3) フノリの生殖器官。4) 水の華。5) 緑藻、紅藻、藍藻の分類。
- (C) 生理生化学関係には 1) 放射線の効能。2) イオン吸収。3) アンモニアや炭素の代謝。4) 微量元素の定量等。

会議のもよとして「討論中には年配の専門家も青年科学者もともに百家争鳴の精神にもとづき、それぞれ自己の見解をのべて問題を提出し、討論は極めて熱心に行なわれた……」とあり、また「……討論を通じて藻類学将来の方向と任務とを明らかにした。藻類学は生産の実際と結びついて、中国の経済建設面の科学技術的な問題を解決することを主要任務とすべきであり、同時に基礎理論の研究を強化し、重要な空白面を補填し、藻類学の全面的で健全な発展を保証することを一致して認めている」と記している。

以上の報告中には、中国藻類学会が結成されたい様子はみられない。しかし中国においても、藻類を研究材料としている研究者たちが一堂に会したことは重要なことであり、やがて日本其他のように藻類学会の結成される日も近いものと想像できる。

(神戸大・理 広瀬弘幸)